

-Index-

紙上報告② 第18回「きこえない」を知る二日展
デフリンピック開幕 VRで体験する「聞こえない世界」
ミニコラム Auracast が変える「きこえの支援」
チャレンジ！発音指導㊟



紙上報告②

第18回「きこえない」を知る二日展

10月3日（金）・4日（土）の両日にわたり、本校文化祭を実施し、400名を超える多くの方々にご来場いただきました。

あわせて、第18回「きこえない」を知る二日展も開催し、今年度は11月に東京で行われるデフリンピックを特集しました。

また、京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社様のご協力のもと、Cotpat の展示も行いました。

本号では、Cotpat の展示内容についてご紹介いたします。

Cotpat



当日は、お薬手帳を持ってきてください。



大阪府立中央聴覚支援学校 文化祭

今回の展示では、京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社様のご協力のもと、音声をリアルタイムで認識し、スクリーンやタブレットに文字で表示するシステム「Cotpat（コトパット）」を紹介しました。

発言内容をリアルタイムで文字化するサービスはいくつかありますが、Cotpat の特徴は、文字だけでなく、図解や動画などの視覚情報を同時に表示できる点にあります。また、多言語にも対応しており、会話を瞬時に翻訳して相手に文字で伝えることも可能です。

今回の2日間の展示では、デモ用に「トイレの場所」「マイナンバーカード」「清水寺」といったキーワードと画像・動画がリンクされており、会話の中でそれらの語が出てくると、瞬時に関連する図解や映像が表示される仕組みになっていました。認識精度も非常に高く、体験された参加者からは驚きの声が多く寄せられました。



担当者の方にお話を伺うと、もともとは訪日外国人対応を目的に開発を進めていたところ、同志社大学に導入した際、聴覚障がいのある学生がこのシステムに感銘を受けたことをきっかけに、聴覚障がい者向けにも市場を広げることになったそうです。

さらに現在、日本手話を文字に変換する機能の研究開発も進めており、完成すれば、日本手話で表出した内容を文字化して相手に伝えることができるようになるということです。

二日展アンケートより（一部抜粋）／

- ・ Cotpat の機能を実際に見ることができて良かったです。とても正確で驚きました。
- ・ 近未来という感じがして、もっとひろまってほしいです。
- ・ 映像まで出るところにびっくりしました。
- ・ 最先端技術について知ることができて良かったです。
- ・ リアルタイムで言葉を文字に変換して表示してくれるので便利だと思いました。
- ・ 手話対応になるとよりいいなと思いました。
- ・ 内容を確認できることはろう者にとって安心できるのでいいですね。

デフリンピック開幕！

ー日本選手団が歴史的快挙ー

11月26日、東京体育館で閉会式が行われ、第25回デフリンピックは幕を閉じました。日本初開催、そして、100周年という節目を迎えた本大会には世界各国から多くの選手が集まり、21競技で熱戦が繰り広げられました。

日本選手団は、これまでの記録を大きく更新し、**金メダル16個、銀メダル12個、銅メダル23個、合計51個のメダルを獲得しました。**この結果は、日本のデフリンピック史上最高の成績であり、国内外から大きな注目を集めています。



陸上競技では山田真樹選手が男子400mで金メダルを獲得し、スピードと力強さを世界に示しました。フィールド競技では遠山莉生選手が男子ハンマー投で優勝し、圧倒的なパワーで会場を沸かせました。水泳では茨隆太郎選手が複数種目で金メダルを獲得し、日本の競泳陣の層の厚さを証明しました。

また、女子バスケットボール日本代表が初の金メダルを獲得。決勝ではアメリカを破り、会場は歓喜に包まれました。

女子バレーボール日本代表も金メダルを獲得。決勝戦では強豪トルコを相手にフルセットの激闘を制し、粘り強いプレーで世界の頂点に立ちました。



さらに、空手競技でも森 健司選手が金メダルを獲得。東京武道館で行われた決勝戦では、世界の強豪を相手に堂々の演武を披露し、技の正確さと力強さで観客を魅了しました。

ここ大阪にゆかりのある選手もたくさん競技で存在感を発揮しました。次回のデフリンピックは2029年にギリシャ・アテネで開催予定です。

なお、本校中学生も修学旅行で観戦しました。その観戦記も今後掲載できればと思っています。

近畿教育オーディオロジー研究協議会

令和7年度「冬の学習会」

草津市立市民総合交流センターにて開催！

〈午前講演〉

安岡久美子先生（医療法人社団昂会日野記念病院 耳鼻咽喉科部長）
「聴覚障害を持つ医師としての経験から」

〈午後講演〉

田原敬先生（国立大学法人茨城大学教育学部 准教授）
「これからの聴覚活用を考える」

【日 時】令和8年2月7日（土）受付 10:00～

10:30～12:45 午前の部
12:45～13:45 昼食・休憩
13:45～16:00 午後の部
16:00～16:10 事務連絡・閉会



【対 象】①聴覚障害教育(療育)に関わる職員・言語聴覚士など②保健医療・福祉関係者など

【場 所】草津市立市民総合交流センター(〒525-0032 滋賀県草津市大路2丁目1番35号)

【受講費用】会員は無料（会員外は1,000円）

【参加方法】対面聴講となります。配付資料については、申し込まれた方を対象に事前にご案内いたしますので、当日までにダウンロードしていただき、ご持参ください。

【申込方法】

・近畿教育オーディオロジー研究協議会のホームページから受講案内および参加申込フォームにアクセスできます。

(<https://www.normanet.ne.jp/~kinki/>)

・受講に関するご質問等がありましたら、近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局まで、ご連絡ください。



近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局（E-mail:kinkieaa@gmail.com）



申込締切
12/25(木)

Auracast が変わる「きこえの支援」 ー ロジャーに続く新たな補聴援助システムの形

近年、Bluetooth の新しい規格として注目を集めている「Auracast（オーラキャスト）」は、音声を複数の受信機に同時配信できる技術です。従来の Bluetooth が送信側と受信側を一对一でペアリングして接続していたのに対し、Auracast は「放送」のように音声を発信し、対応機器が自由に受信できるという点が大きな特徴です。

補聴器分野でもこの技術の活用が検討されており、今後、対応機器の普及が進めば、駅や空港の案内放送、映画館や美術館の音声ガイドを補聴器で直接聞くことができるようになることが期待されています。教育現場でも、体育館や教室に発信機を設置すれば、教員の声や放送音声を児童生徒の補聴器に直接届けることができ、音環境や使用している機種等に左右されにくい聞き取り支援が可能になるかもしれません。

この技術は、大阪・関西万博でも一部パビリオンで体験展示が行われました。来場者が自分の

補聴器やスマートフォンで音声を直接受信できる仕組みが試され、現実の場でどのように機能するかが実証されました。

これまで多くの学校で使用されてきたロジャーシステムなどの補聴援助機器は、高性能である一方、専用機器の準備や管理が必要でした。Auracast では、より汎用的な機器を活用できる可能性があり、将来的にシンプルで柔軟な支援体制を築く新たな選択肢となるかもしれません。



画像は生成 AI で作成

【 訂正とお詫び 】

本誌において、号数（ナンバーリング）に誤りがありました。正しくは下記のとおりです。

	誤	正
6 月号	第 3 5 7 号	第 3 5 4 号
7 月号	第 3 5 8 号	第 3 5 5 号
9 月号	第 3 5 9 号	第 3 5 6 号
10 月号	第 3 6 0 号	第 3 5 7 号

（358 号の 11 月号から正しい号数で発行しております。）

チャレンジ！発音指導 25

サ行音

本号では、サ行音の構造についてお話します。

発音指導では、サ行音は一見すると同じグループに見えますが、実は「し」だけは他の音と構造が大きく異なります。

「さ・す・せ・そ」は、口の中で息を細く通すことで生まれる摩擦音です。舌先を上歯の裏（歯茎）のすぐ後ろに近づけるだけで、触れないようにするのがポイントです。舌が歯に触れてしまうと、英語の「スィー」に近い音（[θ]）になってしまいます。

息は、舌と歯茎の間のすき間を通してまっすぐ前に流れるように出します。この構えは「さ・す・せ・そ」で共通しています。

一方、「し」はサ行の中で他とは異なる音です。「し」の子音は、従来のろう教育関連の教科書や資料では、[ʃ] と記することが多くあります（ただし、音声学的には、[ɕ]（無声歯茎硬口蓋摩擦音）と表すのが正しいとされています）。英語で言えば「she」に近い音です。舌の前の部分（前舌）を少し後ろに引き、上あごの前方（硬口蓋）に近づけて発音します。舌先は歯の裏から離れ、口をすぼめて息が真ん中から出るようにします。

このように、「し」は舌の位置がほかのサ行音より後方で、口の形もすぼめる必要があるため、「さ・す・せ・そ」とは構音の仕方が根本的に異なります。

<指導のポイント>

「し」は「ち」や「ひ」に近い音で誤って発音されることも多く、子どもにとって難しい音のひとつです。そのため、サ行音を一度に教えようとせず、「さ・す・せ・そ」と「し」を分けて指導することが効果的です。鏡や口の図を使って、舌の位置や息の流れを視覚的に示すことで、子ども自身が構音の違いを理解しやすくなります。

次号では、サ行音の指導法について解説します。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：金森、只腰、萩原
〒540-0005 大阪市中央区上町 1-19-31
TEL: 06-7712-1405（支援関係）／ 06-6761-1419（学校代表）
携帯: 080-7008-9463（支援部専用）FAX: 06-6762-1800